

研究代表者

林 英治(九州工業大学、林 英治(九州工業大学社会ロボット具現化センター、センター長・教授)

概念図

人とシステムの協働を実現する海岸清掃共創シナリオの構築



人とロボットの協働により、海ごみ問題が解決
海岸環境が保全・管理される社会に向かう

特に優先する目標群

スタンプ

ゴール／ターゲット



ゴール9

質が高く信頼できる持続可能かつレジリエントな海岸インフラを開発・導入し、地域社会の発展を支援する。

【ターゲット】

計画段階から“協働開発”を進める。技術偏重にならないよう、関係者意見を常にフィードバックする。市民も漁業者も開発の一端を担う。



ゴール12

リサイクル、および再利用（リユース）により廃棄物の排出量を大幅に削減するモニタリングツールを開発・導入する。

【ターゲット】

日本型の製造、流通、消費の責任分担を、いまこそ確立していく。プラスチックのリサイクル法制度により、2021年以降に急速展開が見込まれる。社会実験として本プロジェクト対象地が実践予定。



ゴール14

陸上活動によるあらゆる種類の海洋汚染を防止し、大幅に減少させる。

【ターゲット】

海洋汚染の代表例の「海ごみ問題」。最大のステークホルダーの漁業関係の参加。海関係のみでは解決できなかった。他の目標との連動が不可欠。（「宗像国際環境会議」の連携、協議の枠組を活用。）



ゴール17

社会のあらゆる人たちの連携が必要。

【ターゲット】

海だけでなく、陸のステークホルダーの連携や協力が不可欠。単独セクターのみで未解決だった問題を、連携の在り方自体を問いながら改善していく。

SDGsの17ゴールは統合的で相互に関連している。トレードオフにならないように留意しつつ研究開発を推進する。

特に優先する目標群

スタンプ

ゴール／ターゲット



ゴール9

質が高く信頼できる持続可能かつレジリエントな海岸インフラを開発・導入し、地域社会の発展を支援する。

【ターゲット】

計画段階から“協働開発”を進める。技術偏重にならないよう、関係者意見を常にフィードバックする。市民も漁業者も開発の一端を担う。



ゴール11

世界文化遺産の地域として、環境保全・開発管理の取り組みを強化する。

【ターゲット】

従来の都市環境政策を、廃棄物や水循環を海からの視点で見直す。計画や課題解決への“参加”“多様な人たちとの連携”は居住環境を形成していく住みやすさの重要な要素。（国連ハビタット、国、自治体との連携）



ゴール12

リサイクル、および再利用（リユース）により廃棄物の排出量を大幅に削減するモニタリングツールを開発・導入する。

【ターゲット】

日本型の製造、流通、消費の責任分担を、いまこそ確立していく。プラスチックのリサイクル法制度により、2021年以降に急速展開が見込まれる。社会実験として本プロジェクト対象地が実践予定。



ゴール14

陸上活動によるあらゆる種類の海洋汚染を防止し、大幅に減少させる。

【ターゲット】

海洋汚染の代表例の「海ごみ問題」。最大のステークホルダーの漁業関係の参加。海関係のみでは解決できなかった。他の目標との連動が不可欠。（「宗像国際環境会議」の連携、協議の枠組を活用。）



ゴール17

社会のあらゆる人たちの連携が必要。

【ターゲット】

海だけでなく、陸のステークホルダーの連携や協力が不可欠。単独セクターのみで未解決だった問題を、連携の在り方自体を問いながら改善していく。

SDGsの17ゴールは統合的で相互に関連している。トレードオフにならないように留意しつつ研究開発を推進する。